

自立 自ら動く
～創・思・鍛～

穂北の子ら

穂積北中学校だより
No. 6
令和元年9月27日

澄み渡る青空のもと、響き渡る団結の声！最高の体育祭をありがとう！！

校長 池田卓也



体育祭に至るまでの取組、「日常の学校生活の上に体育祭という行事がある」という共通認識のもと、生徒たちは精一杯の準備をしてきました。時間を守ることを、授業を大切にすること、掃除や整理整頓をはじめとする環境を整えることについて、学級・学年・団で声を掛け合い、刺激し合って取り組んできました。そして、最高の準備をして迎えた体育祭。競技する人も応援する人も、誰もが満足できる本当に爽やかですばらしい体育祭となりました。



また、当日は保護者・家族の皆さん、地域の皆さん、来賓の皆さんが非常に多く応援に駆けつけてくださいました。生徒たちの大きな力となり、あのように力を出し切れる体育祭になったのだと感じています。本当にありがとうございました。以下に閉会式での私の話を掲載します。

感動の体育祭でした。開会式で荻谷生徒会長が話してくれた通り、スローガン通りの最高の体育祭になりました。競技について少し振り返り、私なりの感想を述べさせていただきます。

【全員リレー】クラスで作戦を考え、バトンを受け渡す位置を工夫し、流れるようなバトンパスがありました。スピード感あふれ、全員が精一杯トラックを駆け抜ける姿が印象的でした。



【大縄跳び】学級での練習を思い出し、円陣を組んで声を出す。スタートの前の静寂、ピストルの合図と同時に響く大きな掛け声、そして回し手の縄と、跳ぶ人の跳躍との見事なシンクロ。3分間、間髪を入れずに跳び続ける姿にクラスの一体感と美しさを感じました。



【綱引き・棒引き】男子・女子それぞれの意地が感じられました。エレガントな生徒の多い穂北中ですが、この時ばかりはワイルドに変身する姿が垣間見られ、その中に力強さやたくましさを感じられました。

【連脚走】どのクラスも一番時間をかけて取り組んできた種目です。スタート時の集中力は鬼気迫るものがありました。「1・2・1・2」と横一線になって本部席に大波が迫ってくるようでした。特に3年生は全クラス9秒台。3年間の積み重ねを感じました。

【団別リレー】バトンの受け渡しも、駆け抜けるスピードもやはり「次元」が違いました。カッコいいとしか言いようがありませんでした。団席前を駆け抜けるときの大きな声援が、選手の背中を押し、トップスピードをさらに高めていました。

【応援合戦】あの砂煙の中でも全く動じないその精神力、今までの集大成を見せようとする応援団の気持ちが団席にも乗り移っていました。指先までぴたりと揃った動き、熱い思いを伝えようとする大きな声、団全員の思いがひしひしと伝わってきました。それぞれの団のよさが十分に発揮されたすばらしい応援合戦でした。



この体育祭でクラスが一つになり、学年が一つになり、そして穂積北中学校が一つになりました。感動の体育祭でした。取組を含めた経験や成果が、これからの皆さんの学校生活を充実させ、さらに人生を豊かにすることを期待して私の話を終わります。